エコアクション２１

令和6年度環境経営レポート

（対象期間：2023年11月～2024年10月）

株式会社　黒川製作所

発行日：2025年2月1日

目次

１．	組織の概要	Ｐ１
２．	対象範囲	Ｐ２
３．	環境経営方針	Ｐ３
４．	環境経営目標	Ｐ４
５．	環境経営計画	Ｐ５
６－１．	環境経営目標の実績と評価（電力使用量）	Ｐ６
６－２．	環境経営目標の実績と評価（化石燃料）	Ｐ７
６－３．	環境経営目標の実績と評価（廃棄物排出）	Ｐ８
６－４．	環境経営目標の実績と評価（水使用量）	Ｐ９
６－５．	効率的な営業ルートの推進及びエコに関する商品PR	Ｐ１０
７．	次年度の取組内容	Ｐ１１
８．	環境関連法規への違反、訴訟の有無	Ｐ１２
９．	代表者による全体評価と見直しの結果	Ｐ１２

１．組織の概要

1.　事業所名及び代表者名

株式会社　黒川製作所

代表取締役　黒川　伸一

2.　所在地

本社　〒930-0873　富山県富山市金屋1634-10

TEL.076-441-4321　FAX.076-433-5336

高岡営業所　〒933-0011　富山県高岡市石瀬67-1

TEL.0766-24-3718　FAX.0766-24-3717

3.　環境保全関係の責任者及び連絡先

環境管理責任者　：　奥原　弘

環境推進リーダー：　江川　誠

4.　事業内容

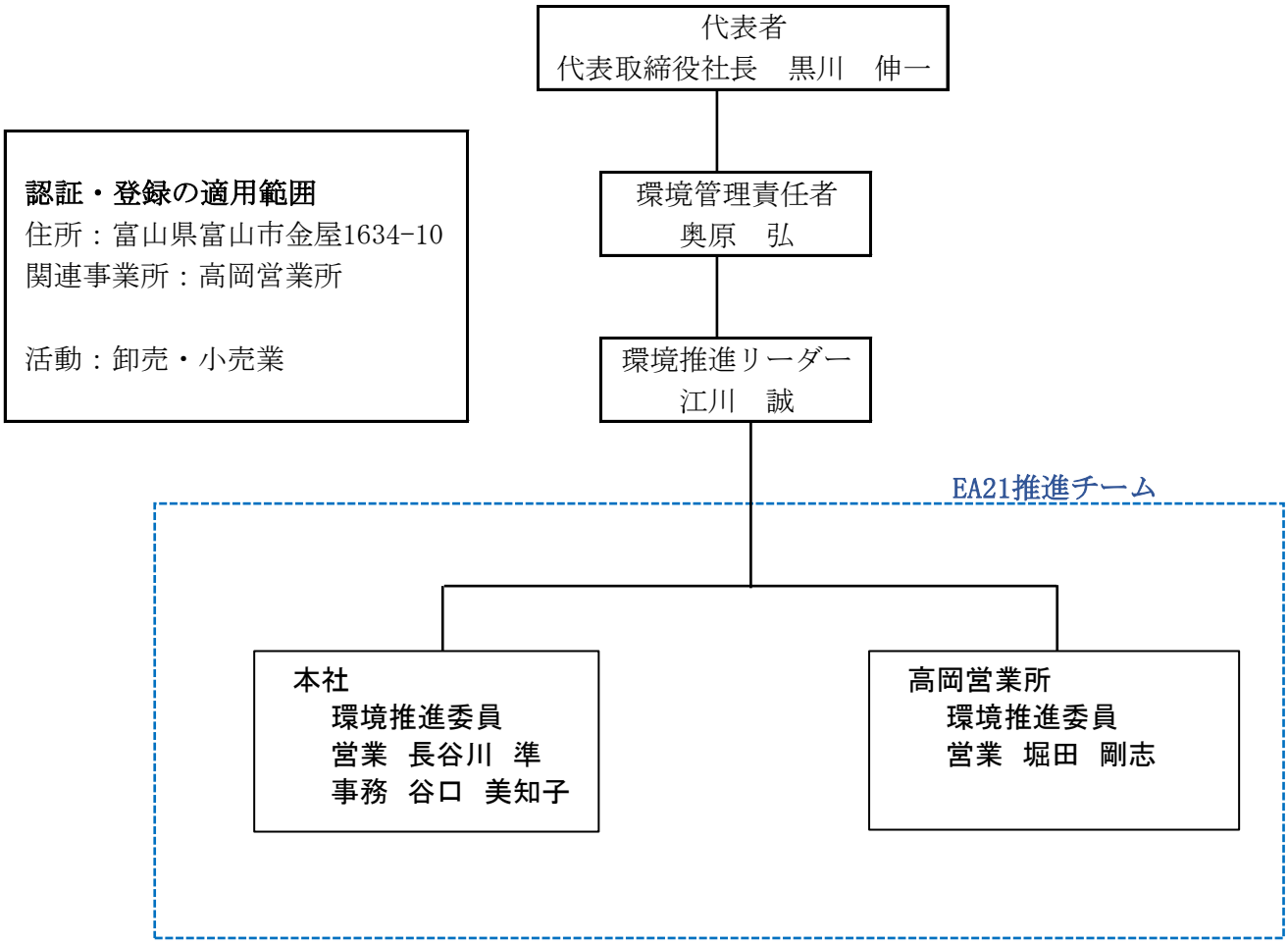
理化学機器、分析機器等の販売

5.　事業規模（2023-11～2024-10）

売上高　：　3,929百万円

従事者数：本社16名、高岡営業所5名　合計21名

２．対象範囲



改定日：2022年7月1日

責任者	役割・責任・権限
代表者	・環境経営に関する総責任者 ・環境経営方針の策定、環境経営システムの承認 ・環境経営システムの実施に必要な資源の用意 ・環境管理責任者の任命 ・環境経営レポートの承認 ・環境経営システムの取組状況の評価、見直しを実施し、指示を行う
環境管理責任者	・環境経営システムの構築・運用 ・環境経営レポートの確認 ・環境経営システムの構築・運用状況を代表者に報告
環境推進リーダー	・環境経営活動全体の実行リーダー ・環境管理責任者の補佐 ・環境経営システムの円滑な運用の推進
環境推進委員	・個別の環境経営活動事項の運用を推進し、チェックを実施 ・各部署でのシステム実行推進リーダー（各部署からの代表者）
EA21推進チーム	EA21環境活動事務局 ・環境経営レポート等、各種報告書の作成、広報活動の実施 ・記録の保存
全従業員	・環境経営方針を理解と環境への取組の重要性を自覚 ・EA21について決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

３．環境経営方針

環境理念

株式会社黒川製作所は、理化学機器（環境科学分析機器等）の商社として、これからの循環型社会に対応するため、地球環境と調和した商社活動の推進と、適切な廃棄処理を実施することで環境との共生を目指します。

活動方針

株式会社黒川製作所は、環境との共生、調和を最重要課題として認識し、又経営における課題とチャンスを踏まえ、自ら責任を持ち、全従業員あげて環境経営の継続的改善に努めます。

このため、以下の活動方針に取り組みます。

１．省資源・省エネルギー活動の推進

事業所内の整理・整頓・清潔・清掃に留意し、事業活動に於ける電力・紙・水道等の資源、石油等化石エネルギーの使用量の削減等環境負荷の改善に努めます。

２．エコドライブ等によるCO2削減の推進

営業ルートの効率化等、エコドライブによる環境負荷への低減を推進します。

３．一般廃棄物を削減する

事務所や梱包された商品から出る廃棄物を最小限にする努力をし、分別処理を推進します。

４．上水使用量の削減をする

事務所内で使用する水量を削減します。

５．環境に関する法律を遵守します

旧2012年 10月 26日
改定2021年　3月 15日
株式会社　黒川製作所
代表取締役社長　黒川　伸一

４．環境経営目標

環境経営方針を踏まえて、下記の項目について環境経営目標を設定した。

環境経営目標	単位	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		基準年度	目標	目標	目標
二酸化炭素排出量の削減					
1-1 電力使用量	kwh	70,076	70,076	70,076	58,266
		対基準値比	±2%の増減による維持削減		
2-2 自動車燃料	ℓ	19,500	19,500	19,372	18,594
		対基準値比	±10%の増減による維持削減		
廃棄物排出量の削減					
1-1 一般廃棄物	kg	2,348	2,117	1,864	
		対基準値比	実績把握とする		
2-2 産業廃棄物	kg	0			
（金属・木くず・カタログ）		対基準値比	実績把握とする		
水の使用量の削減	m3	205	205	209	
		対基準値比	±5%の増減による維持削減		
効率的な営業ルートの推進	エコアクション活動チェックシートの活用				

産業廃棄物は以下の理由で目標値を定めず、実績把握とする。
産業廃棄物は購入された製品の梱包材のため、客先都合及び納入する製品によって大きく異なるためコントロールができない。

５．環境経営計画

環境経営計画の主な実施項目

項目名	主な施策
電力使用量の削減	１．エアコンの温度管理の実施（夏：28℃　冬：22℃）
	２．冷暖房・パソコン・電灯は退社時電源ＯＦＦの徹底
	３．離席時、不要電力の消灯（ＰＣモニター、パソコン、電灯）
	４．ＮＯ残業デーの継続
ガソリン及び軽油使用量の削減	１．低公害車両に切替（ハイブリッド化）
	２．エコドライブ運転の実施 （アイドリングストップ、急発進、急停車、空ぶかし等）
	３．社用車冷暖房の適切な使用
廃棄物の削減	１．裏紙利用の促進
	２．印刷ミス・ミスコピーの削減
	３．再利用するためのゴミ分別の徹底
	４．廃棄物置場を決め、ルールを守る
産業廃棄物	１．産業廃棄物が発生した場合処分する
水使用量の削減	１．無駄な水の使用を控えるように呼び掛ける
	２．水漏れがないか定期的にチェックする
効率的な営業ルートの推進	１．活動チェックシートを活用して、エコ活動の意識を高める

６－１．環境経営目標の実績と評価（電力使用量）

<table>
<tr><th></th><th>目標達成度</th><th>評価</th><th>実施内容と分析</th></tr>
<tr><td>富山本社</td><td>基準年比　16.04%減

2022年度：　57,681 kWh
2023年度：　55,838 kWh
2024年度：　48,425 kWh</td><td>○</td><td rowspan="3">基準年度と比較し、本社は16,04%減となり、高岡営業所は20,60%減となりました。

全体としても、基準年比16,85%減となり、全社的にも電力使用量が減少しています。達成率83.14%

昨年に、順次蛍光灯をLEDに替えることにより、電力の使用量減少に大きく反映した結果と思われます。また、11月よりEV車導入により充電の為の電力使用量の影響が懸念されていたのだが、今のところは影響がないように思われます。</td></tr>
<tr><td>高岡営業所</td><td>基準年比　20.60%減

2022年度：　12,395 kWh
2023年度：　10,936 kWh
2024年度：　9,841 kWh</td><td>○</td></tr>
<tr><td>全体</td><td>基準年比　16.85%減

2022年度：　70,076 kWh
2023年度：　66,099 kWh
2024年度：　58,266 kWh</td><td>○</td></tr>
</table>

2024年度の二酸化炭素排出量の総量：　72,419kg－ＣＯ２／年

二酸化炭素排出係数は北陸電力の2022年調整後排出係数：　0.499 kg-CO2／kWhを使用

年度目標を達成させるため、ご指導いただいた基準年度の見直しをしを図りました。

６－２．環境経営目標の実績と評価（化石燃料）

<table>
<tr><th></th><th></th><th>目標達成度</th><th>評価</th><th>実施内容と分析</th></tr>
<tr><td rowspan="3">ガソリン</td><td>富山本社</td><td>基準年比　5.65%減
基準年2022年

2022年度：　13,586L（ﾘｯﾄﾙ）
2023年度：　14,146 L（ﾘｯﾄﾙ）
2024年度：　12,819 L（ﾘｯﾄﾙ）</td><td>○</td><td rowspan="7">通常使用の営業車については全てハイブリッド車です。

基準年比を2022年度に見直したところ、今年度は、本社5.65%減・高岡2.21%減共に目標を達成することができ、全体では基準年比、4.69%減の結果になりました。

軽油のCO2排出量は、基準年比3.38%の減となりました。
軽油の使用量が大幅に増加しているのは、軽油を燃料とする車（ハイエース・トラック等）を使用しての県外（福井県）への移動の頻度が増えたためと思われます。

ハイブリッド化やEV車の導入など化石燃料を使用したCO2排出量は、さらに抑えることは困難ですが効率的営業ルート、エアコン等など環境負荷への低減改善に努めた成果が実感できたかと思われます。軽油の使用量の減少の要因としては、軽油を燃料とする車（ハイエース・トラック等）を使用の移動の頻度など最小限に抑える事が出来た為と思われます。

引き続き効率的営業ルート、エアコン等など環境負荷への低減改善に努めたいと考えます。</td></tr>
<tr><td>高岡営業所</td><td>基準年比　2.21%減

2022年度：　5,204 L（ﾘｯﾄﾙ）
2023年度：　5,048 L（ﾘｯﾄﾙ）
2024年度：　5,089 L（ﾘｯﾄﾙ）</td><td>○</td></tr>
<tr><td>全体</td><td>基準年比　4.69%減

2022年度：　18,790 L（ﾘｯﾄﾙ）
2023年度：　19,938 L（ﾘｯﾄﾙ）
2024年度：　17,908 L（ﾘｯﾄﾙ）</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">軽油</td><td>基準年比　3.38%減

2022年度：　710 L（ﾘｯﾄﾙ）
2023年度：　929L（ﾘｯﾄﾙ）
2024年度：　686L（ﾘｯﾄﾙ）</td><td>○</td></tr>
</table>

６－３．環境経営目標の実績と評価（廃棄物排出）

目標達成度	評価	実施内容と分析
基準年比　2022年度 可燃ごみ　20.61%減 ダンボール　9.84%増 全体で　4.49%減 2022年度： 可燃ごみ　2,348 kg ダンボール　2,640 kg （合計）　4,988 kg 2023年度： 可燃ごみ　2,117kg ダンボール　2,550 kg （合計）　4,667 kg 2024年度： 可燃ごみ　1,864kg ダンボール　2,900 kg 産業廃棄物　－ kg （合計）　4,764 kg	△	可燃ごみで20.61%減、ダンボールで9.84%増、全体において4.49減となっています。 2024年度、産業廃棄物の処理はありませんでした。 紙の使用を極力避けるため、社内用の書類は裏紙使用及びミスプリントの防止は、徹底されています。 メーカー等の電子化が進み、社内でもペーパーレス化に力を注いでいます。 また、継続して、メーカー協力により、異なる社員の注文品でも、入庫日が同じ場合、同梱してもらことにより、使用するダンボール数の軽減に寄与していますが、今年度は大型の梱包商品が増加傾向にあり、排出量の増加が、原因であると思われる。 可燃ごみ、及びダンボール使用量は、商いの状況に左右されますが、なるべくリサイクルできるように、分別処理を推進します。

６－４．環境経営目標の実績と評価（水使用量）

<table>
<tr><th></th><th>目標達成度</th><th>評価</th><th>実施内容と分析</th></tr>
<tr><td>富山本社</td><td>基準年比　1.77%減
2022年度：　169 ㎥
2023年度：　167 ㎥
2024年度：　166 ㎥</td><td>○</td><td rowspan="3">前年度の評価は、目標達成により○判定でしたが、今年度は高岡営業所が19.44%と大幅に増加、結果的に全体的な評価も下がることになる。

大量に水を使用する企業ではありませんが、清掃、水洗トイレ、手洗い、飲料とコップの洗浄等、ムダな流水を控えています。
本社に関しては、ｳｫｰﾀｰｻｰﾊﾞｰに切り替えたことにより水道使用量の減少に繋がったと思われる。

高岡営業所においては、融雪の為に水道水を使用しているため使用量が増えたと考えられます。</td></tr>
<tr><td>高岡営業所</td><td>基準年比　19.44%増
2022年度：　36 ㎥
2023年度：　37 ㎥
2024年度：　43 ㎥</td><td>×</td></tr>
<tr><td>全体</td><td>基準年比　1.95%増
2022年度：　205 ㎥
2023年度：　204 ㎥
2024年度：　209 ㎥</td><td>×</td></tr>
</table>

６－５．効率的な営業ルートの推進及びエコに関する商品PR

効率的な営業活動とエコに関する商品PRにつきまして、エコアクション「活動チェックシート」を利用することにより、引き続き継続していきます。

社員一人一人が意識を持って参加し、エコアクション活動を実施します。

７．次年度の取組内容

今年度基準年度の見直し(2022年基準）を実施し、化石燃料使用量は、本社で前年比13.67％減となり、全社的には12.75％減となりました。

社用車の過半数がハイブリッド車となっており、これ以上大幅な使用量の削減は難しいですが、今後も一人ひとりが効率的な営業活動およびエコドライブに心がけるようにします。

電力使用量については、会社全体で、LEDに替えるなどの結果使用量の目標達成につなげることができ使用量が減少しましたが、日々の省エネ活動の意識を高め目標達成を持続していきます。

最後に現在実地している不要照明の消灯、裏紙利用の促進等を継続しつつ、また気象条件に影響されないような使用方法等について善処できるよう各営業所の推進リーダーと確認しあい、次年度に繋げて行こうと考えます。

項目名	主な施策
電力使用量の維持削減	１．エアコンの温度管理の実施（夏：28℃　冬：22℃）
	２．冷暖房・パソコン・電灯は退社時電源ＯＦＦの徹底
	３．不要電力の消灯（ＰＣモニター、パソコン、電灯）
	４．ＮＯ残業デーの継続
ガソリン及び軽油使用量の維持削減	1. エコドライブ運動の継続 2. 車内冷暖房の適正使用の徹底
廃棄物の削減	1. 裏紙利用の促進 2. ミスプリント防止運動の継続 3. 再利用するため、ゴミ分別の徹底 4. 不要な廃棄物を引き取らないように、お客様に理解してもらう
産業廃棄物	1. 産業廃棄物が発生した場合処分する
水使用量の削減	1. 水道水使用量削減の呼びかけ （無駄な水を流失させないよう徹底する） 2. 漏水を防止するための点検を継続
効率的な営業ルートの推進	1. エコアクション活動チェックシートを活用した効率的な営業ルート推進を継続

８．環境関連法規への違反、訴訟の有無

１．環境関連法規への違反

環境関連法規への違反はありません。

【適用法規】

- 消防法
- 道路運送車両法
- 自動車リサイクル法
- 廃棄物処理法
- 家電、小型家電リサイクル法
- フロン排出抑制法

２．訴訟等の有無

創業から現在まで、訴訟や近隣からの苦情はありません。

なお、関係当局よりの違反等の指摘は創業以来ありません。

９．代表者による全体評価と見直しの結果

エコアクション21に取り組んでから、16年となりました。環境に対する意識も社員一人一人に間違いなく定着してきたと感じていますが、商社なので、社用車の排出ガス削減と事務所の電力使用量削減が主な活動となります。

社員一人一人が自覚を持って、目標達成に努力し、省エネ活動を実施していると認識しています。今年は、記録的な猛暑が晩秋にまで影響しエアコン使用期間や時間など、悪状況の中本社・高岡営業所共に、電力使用量及び化石燃料の減少。全体的にも目標達成となりました。

この結果により、社員同士の達成感、意識の高まりを更に強化し、次年度以降も目標達成を継続できるように取り組んでください。

・環境経営方針	見直しの必要性はない。
・環境経営目標	〃
・環境経営計画	〃
・実施体制	〃

株式会社　黒川製作所

代表取締役社長　黒川　伸一